

3版化学の新研究 正誤表 2刷用

【注】「電子(を)吸引(性・力)」→「電子(を)求引(性・力)」は、どちらの表記も存在しますが後者がより適切と判断して修正しました。数が多いので正誤表には入れていません。

ページ	問題番号など	訂正行	訂正前(誤)	訂正後(正)
表紙裏	元素の周期表	オスmiumOsの密度	22.57	22.59
表紙裏	元素の周期表	イリジウムIrの密度	22.61	22.56
9	第1章 扉 ラボアジエ	4行目	熱素	燃素
99	5	4行目	1個ずつ教えること	1個ずつ数えること
200	1 詳説3	1行目	分散質には液体と固体のものしか存在しない。	分散質に気体のものは存在しない。
210	8 詳説18	10行目	飽和硫酸ナトリウム	飽和硫酸アンモニウム
215	2	7~8行目	H_2O 1mol	H_2O 2mol
215	2	9行目・12行目	kJ/mol 〈4か所〉	kJ 〈4か所〉
219	5 補足11	5~10行目	強酸と弱塩基、および~ただし、酢酸は例外である。	弱酸や弱塩基のかかわる中和反応では、弱酸・弱塩基の電離が吸熱反応であるため、中和エンタルピーは強酸・強塩基の中和エンタルピー(-56.5kJ/mol)より大きな値となる。(絶対値が小さくなる)。ただし、酢酸は例外である。
219	5 参考	3行目	56.5kJ/mol	-56.5kJ/mol
238	2 ▶段落	12~13行目	~1:1:2となる。したがって、~となる ^② 。	~1:1:2となる ^② 。この関係は、反応速度の単位が同じ場合にのみ成り立つ。
247	[Science Box]	例題〈後者〉6行目	¹³⁸ Ba	¹³⁷ Ba
254	6 例題〈前者〉	グラフの横軸の単位	K	K^{-1}
255	7	4~5行目	少量でも反応速度を変化させる	その反応速度を大きくする
255	7 詳説14	---	〈全文差し替え〉	〈図版リスト：1に差し替え〉
330	15 □1	3, 5, 13行目	$NaCO_3$ 〈2か所〉	Na_2CO_3
357	3 例題 [解]	最後の反応式	→ $Cu(NO_3)_2$	→ $3Cu(NO_3)_2$
368	[Science Box]	右段下から7, 9行目	2.50×10^{-5}	2.50×10^{-4}
380	[Science Box]	表の右上	-は発熱, -は吸熱を示す。	-は発熱, +は吸熱を示す。

ページ	問題番号など	訂正行	訂正前 (誤)	訂正後 (正)
382	3 □3 補足10	9行目	$3\text{Pt} + 4\text{HNO}_3 + 18\text{HCl} \rightarrow 3\text{H}_2 [\text{PtCl}_6] + 4\text{NO} + 8\text{H}_2\text{O}$	$\text{Pt} + 2\text{HNO}_3 + 8\text{HCl} \rightarrow \text{H}_2 [\text{PtCl}_6] + 2\text{NO} + 4\text{H}_2\text{O} + \text{Cl}_2$
383	[Science Box] トタンとブリキの腐食	右段*の1行目	Su	Sn
398	16	15行目	電解液の濃度が変化しない	電解液の濃度がほとんど変化しない
451	7 (訂正後8)	1行目	7 硫酸の性質	8 硫酸の性質
501	[Science Box]	(4) 1行目	日本量	日本酒
510	4 詳説12	13~15行目	ミョウバンの結晶を100°C付近まで熱すると、自身のもつ結晶水中に溶解するが、さらに200°C付近まで熱すると、すべての配位水を失って、	ミョウバンの結晶を約65°Cに熱すると、 $\text{Al}_2(\text{SO}_4)_3 \cdot 3\text{H}_2\text{O}$ に変化するが、さらに220°C付近まで熱すると、すべての水和水を失って、
588	8 詳説12	14行目	配座がすべて重なり形であり	配座の2か所が重なり形であり
589	[Science Box]	右段末尾	19種類	20種類
596	5 補足14	---	〈構成変更と修正〉	〈図版リスト3：に差し替え〉
626	例題	下から4行目	$\text{A}\cdots (\text{CH}_3)_3\text{CHOH}$	$\text{A}\cdots (\text{CH}_3)_3\text{COH}$
644	7	1行目	カルボキシ基とヒドロキシ基とを	-COOHとアルコール性の-OHを
670	[Science Box]	左段15~16行目	脂肪酸の分解も-COOHのβ位の炭素から、アセチルCoAとして切り取られていく。	脂肪酸の分解は、α位とβ位の間の結合が切れ、アセチルCoAの形で順番に切り取られていく。
670	[Science Box]	左段18行目	〈構造式上部の数字に対応する下部のギリシャ文字〉 1- α 2- β 3- γ 4- δ 5- ϵ	1-〈削除〉 2- α 3- β 4- γ 5- δ
688	5	1行目の反応式	安息香酸 (沸点123°C)	安息香酸 (融点123°C)
727	6 参考	5行目	〈反応式矢印の下〉 50~60°C	〈削除〉
728	7	タイトル, 反応式	カップリング	ジアゾカップリング
728	7	5行目	カップリング	ジアゾカップリング (カップリング)
777	6 ▶段落	2行目	(主に2位)	〈削除〉

ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）
811	[Science Box]	右段〔2〕8～9行目	結局，GlyのN-Hと隣のProやHypのC=Oとの間で水素結合が形成され，	結局，GlyのN-Hから数えて4番目のProやHypのC=Oとの間で水素結合が形成され，かつ，Hypの側鎖の-OHの水素結合によって
814	8 □2 詳説19	9行目	キノン型	キノイド
814	8 □2 詳説19	反応式	〈最後の構造式〉	〈Nの右上に⊕（○の中に+）を追加〉
814	8 □3 詳説20	---	〈全文差し替え〉	〈図版リスト：5に差し替え〉
830	4 詳説4	10行目	ADP + H ₂ P ₂ O ₇	ADP+H ₃ PO ₄
844	5	1～4行目	〈全文差し替え〉	〈図版リスト：8に差し替え〉
844	5 補足15	5～7行目	結晶部分が多い（非結晶部分は少ない）。このため，染料分子が内部へ拡散しにくく染色性が悪い。そこで，他成分との共重合によって分子間力を弱めると，非結晶部分が多くなり，染色性が向上する。また，アクリロニトリルに塩化ビニルを共重合させたものは，	結晶部分が多い。このため，染料分子が内部へ拡散しにくく染色性が悪い。そこで，他成分との共重合によって分子間力を弱めると，非結晶部分が多くなり，染色性が向上する。また，アクリロニトリルに塩化ビニルCH ₂ =CHClを共重合させたモダクリル繊維は，
858	[Science Box]	右段9行目	<i>o</i>位，または<i>p</i>位に対して，	<i>o</i>位，<i>p</i>位は電子密度が高く，
881	索引	3段目下から9行目から3行目	N-グリコシド結合 829,833,670 n-3系 867 NBR 796 N-末端 670 n-6系 864 エネルギー弾性 606 エノール 618,711,713	N-グリコシド結合 829,833 n-3系 670 NBR 867 N-末端 796 n-6系 670 エネルギー弾性 864 エノール 606,618,713
885	索引	4段目28行目	〈追加〉	ジアゾカップリング 728
887	索引	2段目29行目	正触媒 255	〈削除〉
891	索引	4段目6行目	負触媒 255	〈削除〉
893	索引	4段目30行目	〈追加〉	モダクリル繊維

<></>で囲まれた部分は以下のような文字です

下線 <u>□ </u>

イタリック <i>□</i>

太字 □

上付き [□]

下付き _□

